

## ■柏市地域ブランディング戦略プラン（案）に係るパブリックコメント実施結果

### 1 実施期間

令和5年5月17日（水）から令和5年6月16日（金）まで

### 2 パブリックコメント提出数

9名より計22件

### 3 内容及び回答

いただいた御意見の内容及びそれに対する市の考え方は以下のとおりです。

また、御意見の内容は一部原文ではなく要旨として掲載しています。

区分	ご意見	市の考え方
プラン案の表現方法	・ブランディング、ステークホルダー等、カタカナ語が多用され、日本語を母語とする人々には、伝わりにくくはないか。	本プランで使用しているいわゆるカタカナ語については、日本語を用いてひとことで表現することが困難な意味合いを、包括的に含んでいるものです。 それぞれの言葉に対する意味については、巻末の参考資料及び必要に応じて都度説明書きを記載するなど、伝わりにくさを解消するよう対応してまいります。
	・イメージ作りが先行した案になっていないか。	本プランは「住み続けたいくなる、魅力的なまち・柏」というマインドを、市民を中心とした幅広いステークホルダーに形成し、それによって柏市に対する長期的な絆を醸成するとともに、柏市のファンを増やしていくことを目的としています。 まずは、ブランドイメージを意識したうえで政策的な取組や施設やインフラなどのハード整備、市の施策などのソフト事業を各部署で実施し、プロモーションやメッセージの発信といったブランディング活動を行うことで、柏市のブランドイメージを作っていきたいと考えています。
意識向上・仕組み作り	・柏市役所の職員に対し、柏市の顔であるという自覚を促してはどうか。 ・柏市の住民には優秀な方々が大勢いるはず。柏市の発展のために尽力いただける仕組み作りを促進してはどうか。	ブランディング戦略プランでは、市民を中心としたステークホルダーに向けたブランディングと市職員を対象としたブランディングを実施し、ロイヤルティやマインドの醸成、ファンの増強、市職員としての誇りや自覚の醸成を促すことを目的としています。 御指摘いただいたように、市職員への自覚の促しや、市民の方の御協力をいただきながら、柏市のファンを増やしていく取組を目指してまいります。
施設整備	柏市には強豪のエネオスサンフラワーズやBリーグB1所属のサンロッカーズ渋谷の練習場があるなど、バスケットボールが盛り上げられる資源がある。盛り上げるためには、やはりバスケットボールを見てもらう環境であるアリーナが必要。 ただのアリーナではなく、柏市の地域性である緑豊か、交通の便が良いという事を利用して、大きな公園も併設するのが良いと感じる。 試合前に公園で遊び、そのあとバスケットの試合を観戦して公園内のレストランやカフェで食事をするなど、一日中楽しめるアリーナパークがあれば良い。 プロボウザルにより選ばれた民間事業者が公園を運営すれば、柏市も大きな税収が見込める。 あの公園があるから柏市に遊びに行こうという公園を民間事業者が作るのをみてみたい。	本プランは「住み続けたいくなる、魅力的なまち・柏」というマインドを、市民を中心とした幅広いステークホルダーに形成し、それによって柏市に対する長期的な絆を醸成するとともに、柏市のファンを増やしていくことを目的としています。 そのためにまず、本市の価値構造を整理・可視化し、ブランドターゲットを定め、市に対する共感の輪を広げていくことで、ロイヤルティやマインドの醸成が図っていくことが必要であると考えています。
	・官公庁（市役所・警察・税務署）へ交通手段が不便なため、移転が困難であれば第二庁舎ビルの建設を希望する。第二庁舎に市役所・警察・税務署があればかなり便利。 ・図書館（本館・分館）の建物・蔵書が他市と比較して貧弱である。	いただいた各種ご意見については、実現可能性や実施効果などを検討し、関係部署と情報を共有して、今後の参考とさせていただきます。
	・沿道花壇の整備を子供会あるいは町内会で行う。沿道に蛇口が必要になるため、花壇整備のために少なくとも100mに1カ所つくる。地下に水道を整備し使用する。蛇口横にコンポストを設置し、花壇の整備で出た雑草や近隣の人が生ゴミを捨てる。コンポストでできた堆肥を花壇に戻し循環させる。	
	【文化芸術の場所の拡大】 ◆新市民文化ホール（大ホール・小ホール）の創設⇒柏駅前のそごう跡地は最高の立地。 音楽や舞台のプロアマ各種公演の場所が柏市にはないのが勿体無い。 ◆駅徒歩圏に綺麗な図書館 ⇒10代～30代の自学自習スペースにも。 柏市の学力や文化レベル向上が図れる。 ⇒岩手県盛岡市 [アイーナ]、東京都荒川区 [ゆいの森あらかわ]、青森県十和田市 [十和田現代美術館とその近隣]、大阪府高槻市 [市民ホール（新設）] のような施設とともに青春時代を過ごしたら、若年層の帰属意識も高まると思う。	
	◆柏駅前のホール建設について ◆柏駅前の図書館新設について 令和2年 [第五次柏市芸術文化振興計画（案）に関するパブリックコメント実施結果について] の結果に対する市の回答に、『既存の文化施設を効果的に活用するとともに、興味関心のある方に直接伝えるような情報発信に努めます。』とあったが、現在ある文化施設のひとつ、柏市民会館は ・立地（駅から遠い） ・交通アクセス（公共交通機関の本数が少ない） ・バリアフリー未対応（正面横のスロープが急）（舞台裏も段差が多い） ・音響（響かない） ・舞台設備（安定しない椅子がある） ・周辺環境（開演前後の時間をゆったりと過ごす場所がない） など公演の主催/訪問両方の観点で残念ながら [使いづらい] [集客しづらい] [行きづらい] 要素が多くある。同様に図書館設備も立地・アクセス・設備面で使いづらいように感じる。車がないと行けない（自転車は走りづらい）ということが、若年層の満足度が低い要因ではないかと思慮する。 ・『これから何か始めたい』層 ・『子どもを産み育てようとする』層 ・『受け継いだ価値を次の世代へ繋げたい』層 これらの人たちに共通して響くものは文化芸術の面ではないか。 柏市は商業施設、スポーツ施設、学校についてはある程度充実している反面、文化的要素が圧倒的に足りない。歴史は新しく作れませんが、文化や風土はこれから作っていくことができる。	
空き家対策・施設整備	・使われていない公共施設や空き家を市でリフォーム・清掃し、無償での使用を可能とする。例えば田中北小跡地をテレワークで使えるようにし、保育園も完備する。そこで地域の人がお弁当を作って売る。また、お惣菜を作り、夕方働くお母さんのために各保育園で販売する。飲食店の開業に必要な資格取得は市で援助する。 ・空き屋バンクでは自分の庭で採れたハーブを売ってもいいし、野菜や花など、個人が売ることをもっと身近にできると良い。 ・メルカリの地域版のような施設を作る。子どもの本はここで、家具はこの空き家で実際に見て中古が買えるといった施設にする。柏市内の小売店で使えるポイントを作成し、バーコードで管理しつつ無人で販売し、売れた人がポイントをもらえるといったサービスにする。 ・年配の方が柏踊りを教えたり、編み物、保存食作りを若い人に伝えられるような教室を開く。 ・公共施設・空き家の使用無償化により子どもをもつ母親が離職前の技術でできるような短時間の教室が開けるようにする。	

北部整備	<p>住民にとっては「自分たちの生活がよくなるのか」が最大の関心事だと思う。流山市はそこを端的に示していきやすいと感じる。ブランディング戦略を進めていく上で、住民の生活を踏まえた発信をしてほしい。</p> <p>柏の葉は、研究施設やスポーツ施設、ロケ地としての利用が進んでおり、外部との交流が増えていると実感できる。住民の街だけでなく、外から使ってもらえる街としての意識があるといい。特に高輪ゲートウェイなどのスマートシティ開発が進んでいる都市との差異化をするべき。</p> <p>都内から柏の葉に引っ越してきたが、ららぽーとやTsite、柏の葉公園などが点在しているため、歩く機会が増えた。駅近が便利な街である一方、自動車で来訪・移動しやすい街にもなっているように感じるため、ただのコンパクトシティとは違ったイメージを出してもらえるとよい。</p>
インフラ整備	<p>【住みやすい街の根幹＝道路】</p> <p>◆都市計画道路の工事推進</p> <p>⇒とにかく歩道がなく車道も狭い。それでいて往来数は多い、というのが柏市の特徴だと思う。車も自転車も歩行者もストレスを感じながら市内を往来するので、これが住みづらさや将来別の場所に移りたいと思ってしまう大きな要因になっていると考える。</p> <p>計画道路上に住む市民の反発は当然あると思うが、今の道路事情に不満を感じている。都市計画道路を待ち望む市民の静かな声に耳を傾けてほしい。</p>
子ども政策	<p>子どもの放課後の活動について、子育て世代に寄り添ってほしい。</p> <p>民間事業者に運営を委託し、学校の体育館を貸し出して何らかのスポーツ教室を実施してほしい。共働きや車を持たない家庭では子どもの習い事の送迎が出来ず、習いたいのに習えない。</p> <p>親の就業状況や金銭状況によりスポーツに接する機会が大きく左右されているのが現状。</p> <p>学校で何かしらのスポーツ教室やミニバスなどがあれば送迎の必要もなく、公的施設であるため比較的安価に習い事ができ、子どもたちの健康や体力向上も見込めるのではないかと。</p> <p>現状、小学校の体育館を使用したくても毎日他の団体の使用予約が入っており、体育館の使用枠がない。しかし、実際は使われていない日が多くあり、本当に体育館を必要としている自校の子どもたちが使えていない状況も変えるべき。</p> <p>そもそも人口比に対して体育館が少なく他の団体も困っているとは思いますが、まずは17時位までは自校の子どもたちに使わせてあげる仕組み作りが必要かと思う。</p> <p>柏市は通学路に習い事のできる場所が少ないため、親の送迎が必要となることが多い。</p> <p>親が送迎をする→子どもの習い事に付き添う→子どもに助言をする→子どもが親に依存する</p> <p>親が習い事に全く関与しない事は無理だが、関与し過ぎると起きる弊害も多くある。</p> <p>習い事（例えば習字やそろばん、ピアノ、工作など）が帰り道にあれば、友だちと一緒に習い事へ行ったり、終わってから一緒に遊べたり、子どもの自由度が上がる。</p> <p>民間事業者を募集して、通学路に習い事や塾などを誘致するのも良い。</p> <p>もちろん、習い事を必ずしなさいという訳ではなく、下校中、放課後の子ども自身の選択肢の幅を広げてあげることが柏市の教育の質の向上、教育ブランド向上にもなるのではないかと。</p> <p>流山市と柏市を育児のしやすさで比較すると断然流山市の方が優れているように感じる。</p> <p>国が異次元の少子化対策へ取り組んでいる今、一層の子育て世帯への支援をお願いしたい。</p> <p>柏市のメインは柏駅だが、保育園は待機児童だらけ、東口の旧そごうは廃墟のまま、駅前歩きタバコをしている人だらけ。</p> <p>旧そごうをららぽーとのような若年層向けの施設にするなどして、保育園を入れてはどうか。</p> <p>駅前も放置自転車防止の指導員と同等の人数で、歩きタバコ防止の指導員の増員をしてはどうか。</p> <p>柏市の顔である柏駅周辺の子育て支援と治安の回復は大事な問題ではないかと。</p> <p>柏駅東口のキッズグリーンパークについて、線路側の広場で数人で座り込んでタバコを吸っていて、せっかくの憩いの場が台無し。</p> <p>子育て支援に関して、流山市の成功事例を柏市でも導入してはどうか。</p>
生涯学習	<p>・柏市には麗澤大学のオープンカレッジという知的な講座がある。ただ通年でないため、時間に余裕のある年長者がかなりいるように思う。ぜひ市と共同で、通年の講座（政治・経済・社会情勢等）を開設していただきたい。</p>
地域コミュニティ	<p>政府もeスポーツ支援の強化を後押しする傾向が見られ、支援強化内容は医科学支援などであるため、研究分野という面においては柏の葉のスマートシティのコンセプトに合うのではないかと。また、コミュニティ形成にもeスポーツやゲームは有効ではないかと。</p> <p>少子高齢化対策や孤独化対策にも有効な点がある。コントローラーなどを使う事で指先をよく使ったりゲーム内で素早い判断を反射的にできるようにしていくことで、柏市が力を入れているフレイル予防が更に効果的になる。</p> <p>その他、シニア向けにゲームを活用する事は若年層がシニア層との交流に壁を感じにくくなるメリットもある。シニア層が集まる場にeスポーツでイベントが出来れば、子供から大人まで集まる事になり、敬遠されがちな介護にも興味を持つ若者が出る可能性も出てくる。更にはシニア向けのeスポーツサロンのような物が存在すれば、そこで働くシニア層など、「生きがい」を見つける方も中には出てくるかもしれない。また、引きこもり対策としてもゲームなら交流しやすかったりするので就労支援でeスポーツを活用するののも一つの手だと考える。</p> <p>現在千葉県でeスポーツに力を入れている自治体はあまりない。日本eスポーツ連合は各都道府県に支部を置いているが、千葉県にはまだ支部がない。そこで柏市が率先して支部を誘致してはどうか。</p> <p>柏市でeスポーツに力を入れる事で、東葛地域に影響を与えられるような状況にもなるかもしれない。柏市にも市職員が参加するeスポーツ部ができれば、他自治体との交流などでの情報共有において、今後の市の課題に対する解決策のヒントも得られるのではないかと。</p> <p>以上のような事から、政府が推進しているデジタル田園都市構想が「世界の未来像をつくる街」にもリンクしている点において、デジタルの視点から見たeスポーツを含めたゲームを活用する事は柏市のブランディングにも有効と考える。</p>
	<p>市全体の交流のため、地域別対抗綱引き大会を行う。</p>
	<p>子供会、町内会を通し、公共施設(地域センター、道路、橋等)の清掃を行い、公共施設を「自分のこと化」する。</p>
教育・子ども・環境	<p>・教科書や制服及び一時的にしか使わない学用品は市で準備し、レンタル可能とする。クリーニングや管理費用等については保護者全体で負担する。なお、自分で準備したい人は自分で準備するなど選択肢をつくる。</p> <p>・新生児及び乳幼児用品などの一時的にしか使わないものは市で準備し、無料レンタルとする。市民の要望により一式貸し出し、クリーニング不要で返せるものとする。</p> <p>・コンポストを設置し、家庭ごみの約40%といわれる生ごみをリサイクルする。</p>

<p>歴史・文化</p>	<p>10歳代から30歳代の定住年数が低く、その層を強化すべく、28ページにあるような「子育て世代、単身20歳代の柏市ブランド価値への共鳴、ロイヤルティ醸成、ファン化の促進」という方針は共感するが、10歳代へのアプローチの強化についても施策を加えてみてはどうか。</p> <p>それは、柏で生まれ育った子どもたちに継続的に柏に定住してもらう、あるいは一次的に市外に転出しても柏に戻ってくるための施策である。</p> <p>それを実現させるためには、子どもの頃から地域に愛着を持つような体験が不可欠である。</p> <p>戦略プランに掲げられているように、特に東部や南部では豊富な歴史文化を見ることができる。</p> <p>子どもたちは、自分の住んでいる地域がそのような歴史文化を持つ土地であることを知ることにより、自分の生まれ育った地域に誇りを持ち、その歴史を継承し、その歴史の一部であるという感覚を持つことで、柏に住み続けたい、戻りたいと強く感じるようになると思う。</p> <p>歴史の中で育ち、自分が主体的に関わったという思い出を持った子どもたち、歴史を通じて地元への愛着を持った子どもたちは、社会人になって自分の人生を選択するとき、「同じ条件なら柏」「将来的にも柏」と考える場面も少なくないのではないかと思う。</p> <p>交流人口や関係人口の増加だけでなく、元々住んでいる子どもたちへの郷土愛を醸成することによって、定住の持続性をはかることは、長期的に若い世代の人口を維持・増加させていくために有効な手段ではないか。また、このような地域の子どもたちを大切にする視点は、新スローガン「つづくをつなぐ」の目指すところではないか。</p> <p>これは、ブランドターゲットの「この街で受け継いだ価値を次世代へ引き継ぎたいと願う人」「この街のことをもっと知りたい、体験したいと想う人」、さらには「この街のために貢献したいと想う人」「この街で学んで夢を、想いを、叶えたい人」「この街で生涯成長し続けたいと想う人」にも合致するのではないかと思う。</p> <p>子どもたちに柏の豊かな歴史文化を継承していくという観点からも、ブランディング戦略プランをご検討いただけたら、大変うれしく思う。</p>
<p>北部整備・シティプロモーション案</p>	<p>①柏市の特性とブランディングの方向性</p> <p>柏市は、都市開発と自然保全が両立した都市である。特に、柏の葉エリアの科学技術研究施設と手賀沼エリアの自然環境は、柏市の象徴的な要素である。</p> <p>この二つの要素を融合した「テクノロジーと自然の調和」を主軸に、地域ブランディング戦略を策定したい。</p> <p>②ブランディング戦略</p> <p>まずは「テクノロジーと自然の調和」のビジュアルイメージ作成が必要。</p> <p>ビジュアルイメージ（柏市の象徴的な要素である柏の葉のテクノロジー地域と手賀沼の自然を組み合わせたビジュアルイメージ）例えば、</p> <p>A.テクノロジーと自然の共生: 柏の葉の高層ビル群や最先端の研究施設を背景に、手賀沼の豊かな自然景観を描き、人々がテクノロジーを使いながら自然と調和して生活している様子を表現</p> <p>B.未来と伝統の融合: 現代のテクノロジーが手賀沼の風景を照らし出すようなデザイン。その中で、科学と自然が一体となり、新たな価値を生み出す力強さと未来への期待感を表現</p> <p>C.テクノロジーが生み出す自然の魅力: 柏の葉のテクノロジーを用いて手賀沼の生態系を観察・保全する様子を描く。例えば、ドローンが自然の美しい風景を撮影しているシーンなど。</p> <p>③企画</p> <p>A.柏の葉テクノロジー&amp;手賀沼エコツアーの企画</p> <p>テクノロジー研究施設の見学と手賀沼の自然散策を組み合わせたツアーを企画し、参加者にテクノロジーと自然の調和を体験してもらう。</p> <p>B.テクノロジーと自然の学習プログラムの開設</p> <p>地元の子供たちを対象に、科学技術と自然環境の保全について学ぶプログラムを開設し、次世代に地域の魅力を伝える。</p> <p>C.柏の葉テクノロジーと自然保全のコラボレーション企画を実施</p> <p>柏の葉のベンチャー企業と手賀沼自然保全に関するコラボレーションイベントを開催する。</p> <p>D.教育機関とのパートナーシップ</p> <p>学校や地域センターと連携し、テクノロジーと自然保全に関する教育プログラムを実施。子供たちへの教育を通じて、地域の特性を理解し愛する次世代を育成する。</p> <p>E.デジタルマーケティング活用</p> <p>ソーシャルメディアやウェブサイトを通じて、「テクノロジーと自然の調和」をテーマにした柏市の魅力を発信。特に、VRやARを活用したコンテンツを作成し、遠隔地からでも柏市の魅力を体験できるようにする。</p> <p>④まとめ</p> <p>柏市は、高度なテクノロジーと豊かな自然が共存するユニークな魅力を持っている。「テクノロジーと自然の調和」を主軸にした地域ブランディング戦略により、地域の価値を高めることができる。</p> <p>具体的なブランディング活動とその実施プランにより、柏市は訪問者の増加、新たなビジネスチャンスの創出、そして住民の生活の質の向上を実現することが可能となる。</p>